

平成 29 年度 工芸科学部 学位記授与式  
学長告辞

本日ここに、卒業式を迎えられた皆さんに対し、大学を代表して祝意を表するとともに、皆さんをこれまで、支え、育ててこられたご家族の皆様をはじめ、本日駆けつけていただいた関係者の方々に対し、心からお祝いを申しあげたいと思います。そして、君たちが明日からの新たな一步を歩み始めるにあたり、「松ヶ崎から世界に飛翔せよ」これを卒業生の皆さんへのはなむけの言葉としたいと思います。そして京都工芸繊維大学もまた、君たち卒業生とともに、世界に羽ばたき、飛翔しようとしています。

京都工芸繊維大学は、京都高等工芸学校及び京都蚕業講習所に端を発し、明治以来 119 年にわたり、古都の風土のなかで「知と美と技」を探求する独自の学風を築き、学問、芸術、文化、産業の分野に多くの人材を輩出してきました。

歴史的にみれば、1899 年に、京都蚕業講習所は輸出の花形産業であった絹の品質保証のため、カイコの研究と技術者養成を行う国の機関として西の都京都の地に設立されました。当時、ヨーロッパではカイコの病気のために生産は伸び悩み、中国の技術は古く、やがて日本が世界一の絹糸の生産量を達成します。本学は、岐阜、愛知、福井以西、近畿圏、四国、中国、九州一円を統括し、日本の繊維産業をリードし、現在の生命物質科学域の基礎を築きました。1902 年に、京都高等工芸学校は同じく輸出の花形産業であった伝統工芸の近代化を図るため、「織物、刺繍、木工、金工、漆、染織、陶磁器、図案絵画」の専門分野を教育・研究する機関として京都に設立されました。京都大学から中沢岩太、東京美術学校から浅井忠、東京大学から武田五一らを招聘し、美術及び学理を応用すべき工芸の研究を開始します。

「科学と芸術」の融合を目指した実践的教育・研究・社会活動は発足当時の学風であり、今日の京都工芸繊維大学のミッションの基盤を形成しています。

現在本学では、教育研究の成果を世界に発信するための理念を次のように定めています。

教育に関しては、「千年の歴史をもつ京都の文化を深く敬愛するとともに、変貌する世界の現状を鋭く洞察し、環境と調和する科学技術に習熟した国際性豊かな人材を育成する。そのため、自らの感動を普遍的な知の力に変換できる構想力と表現力を涵養する。」、研究に関しては、「建学以来培われてきた科学と芸術の融合を目指す学風を発展させ、研究者の自由な発想に基づき、深い感動を呼ぶ美の探求と卓越した知の構築によって、人類・社会の未来を切り拓く学術と技芸を創成する。」、社会貢献では、「優れた人的資源と知的資源とを十分に活かし、地域における文化の継承と未来の産業の発展に貢献するとともに、その成果を広く世界に問いかけ、国際社会における学術文化の交流に貢献する。」としています。

また社会からの期待と激励のメッセージとして、山田啓二京都府知事からは、「京都工芸繊維大学の特色である繊維やデザイン分野を鮮明に打ち出していきたい。」、門川大作京都市長からは、「京都工芸繊維大学と京都市は共通項も多いので、伝統と先端の融合を目指し、京都市とも連携した研究を推進していきたい。」、立石義雄京都商工会議所会頭からは、「学内諸領域が協力して社会イノベーションを起こしてほしい。」と、それぞれいただいています。

こうした社会からの期待に応え、本学の理念を実現するために教育改革を推し進め、「学域」、「学系」、「機構」によって大学組織を構築し、教育においては3×3、クォーター制を導入し、地域貢献、国際交流、イノベーションに注力した活動を行っていますが、その成果は次第に社会からも評価されるようになってきました。

京都工芸繊維大学は、強い個性を有する工科系の国立大学として、近年、急速に社会的な認知度を上げています。2013年には文部科学省「知の拠点整備事業COC」、つづいて2014年には「スーパーグローバル大学創生支援事業SGU」、さらに2015年にはいわゆる「COC+事業」に採択されました。

リクルート進学総研が高校生を対象に行った「進学ブランド力調査」では、ここ数年来、志願度も上昇しています。また、日経キャリアが行った全上場企業対象の就職力ランキングにおいて、全国国公立大学 800 校中総合 23 位の評価を得ています。朝日新聞の調査では、学習時間の長さでベスト 10 に入っています。さらに、全日本学生フォーミュラ大会においては過去 3 年間に優勝 2 回、準優勝 1 回と、本学学生の技術力の高さが示されました。

また、本学の教育方法は、日本機械学会教育賞、日本建築学会教育賞を受賞したことなどにみられるように、学会や社会から高く評価されています。我々の行っている大学教育の成果が社会から認められ、高校生からも企業の方からも高い評価が得られていることは大変喜ばしいことであり、本学学生の皆さん、卒業生の皆さんの勉学や学習の努力を私たちは大変誇りに感じています。本日卒業される皆さんも、自信と誇りを持ってこれからの人生を歩んでいただきたいと思います。

本学は文部科学省からの支援を得て、ユニット招致と呼ばれる方法でケンブリッジ大学やスタンフォード大学、あるいはスイスのETHやロンドンのRCAといった海外の有力大学から講座やグループを招聘し、共同研究や共同教育を行っています。また、タイや英国にオフィスを開設し、海外インターンシップや交換留学の拠点として活用しています。タイのチェンマイ大学とジョイント・ディグリー制度によって大学院に新専攻を開設し、今年度の4月から共同教育を実施しています。またバンコクにおいてキングモンクート工科大学産学連携センターに共同研究の拠点を開設し、ラジャマンガラ工科大学においても教育研究拠点を開設しています。日本国内では、京都府北部の京丹後市サテライトキャンパス及び新シルク産業創造館、綾部市では綾部地域連携室、福知山市には福知山キャンパスを設置しました。

こうした大学活動の盛り上がりと活性化を好機とし、私たちは世界に冠たる大学になろうとしています。卒業生の皆さんも、海外で活躍できる人材、現場でリーダーシップを発揮できる人材、我々が「テックリーダー」と呼ぶ人材として大いに活躍していただきたいと思います。

本日の学位記授与式にあたり、京都工芸繊維大学が掲げる理念を踏まえ、「科学と芸術」、「知と美と技」について、社会におけるリーダーシップについて、学術文化の領域における知性と反知性という立場について、今一度、深く考えていただきたいと思います。

今日の日本社会において、激しく流動化する今日の世界において、知性と反知性がぶつかり合い、互いの批判が複雑に交錯している現状において、劣化し続ける知性を救済できるもの、それは総合的な人間力です。それはまさしく「知と美と技」の3技能を立体的に活用できる皆さん、京都工芸繊維大学で学んだ皆さん自身です。

京都工芸繊維大学は、京都蚕業講習所及び京都高等工芸学校に端を発する長い歴史の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築きあげてきました。この栄光の歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性にもとづく技術の創造をめざして技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合をめざし、教育研究の成果を世界に発信していきたいと思えます。

本日卒業される皆さんもまた、京都工芸繊維大学と歩みを合わせ、さらなる高みへと飛躍されることを祈念して、お祝いの言葉といたします。

平成30年3月26日  
京都工芸繊維大学長  
古山 正雄